コラム

ヨーロッパの古城巡り[*1]

Visiting European Castles

親川　兼俊[*2]
Kenshun OYAKAWA

世界遺産にも登録されている姫路城を始め日本各地には優美な天守閣を持つ城が多く，それにも勿論興味があるが，中学の頃に教科書の挿絵にあったヨーロッパ中世の城とその荘園の情景をみた時からその時代に強く惹かれ，そして多くの城の写真を見ているうちに，いつの日か小さな古城のひとつを買いたいと夢見ていた．しかしその夢はいつしか手ごろなマイホームを建てることにすりかわってしまったが，その代わりにヨーロッパの城をできるだけ見て周りたいという，いくらか現実的な夢を持つようになった．そんな夢話を妻は学生の頃から聞かされ，これまで何度か一緒に古城巡りの旅をした．

ヨーロッパ中世は西暦500年頃からおおよそ千年間，その前期にはほぼ今日のような民族構成となり，キリスト教世界が形成されていく．この頃，王や領主は領土を守るため軍事的要求を優先して山頂に難攻不落な城を建てた．15世紀以降，大砲の出現とともに山城は姿を消し，居住性を重視した豪華な平城や宮殿がその権力を誇示するために建てられていく．

ヨーロッパ中世の城といえば誰しもライン河の古城を思い浮かべるだろう．ライン下りはマインツからコンブレツまで大小25の城がある．そのコンブレツからザンクトゴアール間の遊覧をした．両岸には高い屋根や白壁がめだつ町が点在し，その中腹にはブドウ畑が広がり，その上に古城が次々と現れる．シュトルツェンフェルス城など華麗なもの，仲の悪い領主が隣り合わせにいたため猫城，鼠城と呼ばれているもの，また通行税を取るために中州にあるプファルツ城など，ライン河にとって古城は無くてはならない特有の景観を醸し出している．

ライン河の支流ネッカー川のほとりハイデルベルグからローテンブルクを経て古城街道が走り，50ほどの城がある．その中でハイデルベルグは一番大きく，ドイツ最古の大学として，哲学の道や戯曲「アルト・ハイデルベルグ」は良く知られている．ハイデルベルグ城は歴代領主の居城としてその時々の流行を採り入れ，ゴシック，ルネサンス，バロック様式と，その壁面の彫刻は素晴らしい．30年戦争など度重なる攻撃や落雷のため一部廃墟化しているものの地下にあるワインの大樽は健在であった．

城壁で囲まれた市民自治都市ローテンブルクには中世が凝縮さている．今度の大戦で大分破壊されたと言うが今はすっかり復元され，城内は広場を中心に市庁舎や教会があって徒歩90分ほどで一周できる．ロマンチック街道沿いにあるデイケンズビユールやネルトリンゲンなどは無傷のまま残っている．

ドイツ南部はかつてバイエルン王国であった．その都ミュンヘンは毎年10月頃にビール祭りが開かれ，世界中から800万人ほどの人で賑わう．そのミュンヘン中央駅から5キロ北に白壁の優雅なニンフェンブルク城があり，バイエルン国王ルートビッヒ2世はこの城で生まれる．そしてその多感な少年時代を父王が建てた中世騎士伝説の色濃いホーエンシュヴァンガウ城で中世に憧れて過ごした．王に即位すると中世の城を造ることに夢中になり生涯に3つの城を建てた．その一つがノイッシュバ

＊1　原稿受理　2008年6月10日
＊2　㈶日本自動車研究所　FC・EVセンター　次長

ンシュタイン城である（**写真1**）．アルプスの中腹に聳え立つこの城はロマネスク方式で壮大であり，その凄さに感動する一番好きな城である．その内装はトリスタンとイゾルテなど中世物語がほとんどで，最上階にはワーグナーのために造った劇場がある．ルートビッヒはワーグナーのパトロンとして多大な援助をしていたため家臣によりワーグナーはバイエルンから追放される．その後王はますます築城に没頭，ついにこの王自身が幽閉されることになり，その翌日近くの湖で轢死するのだが今でもその真相は分かっていない．オーストリア皇妃エリザベートはルートビッヒと同じヴィッテルスバッハ家の出で，王の危機を知って助け出そうとしたが既に遅かったようである．ルートビッヒは一度エリザベートの妹と婚約するが，これを解消，またドイツ統一と言う歴史の大きな変動の中で現実から逃げるように人工の鍾乳洞にこもり狂王とされたのである．王の浪費で財政悪化したと言うことだが，皮肉にも今ではこの城は最も重要な観光収入源になっているようである．

写真1　ノイッシュバンシュタイン城

バイエルン地方からオーストリアに入るとモーツアルト，カラヤンの生地ザルツブルクがあり，ザルツアッハ川を見下ろす高台にひときわ頑丈な様相をしているホーエンザルツブルク城がある．ここはローマカトリックの大司教が治める宗教都市であったが，この地の塩山から得られる莫大な利益を独占するために必死であったことがこの城から想像される．城下には聖ペータ教会，川を挟んでミラベル宮殿など，そこは映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台である．

スペインにも多くの名城があり，首都マドリードから70キロ北にセゴビア，60キロ南にトレドがある．セゴビアはローマ時代から開けていて水道橋が町の中心にある．そこからしばらく歩くとそこにセゴビアの城が聳え立っている（**写真2**）．いかにも中世の趣を最高に感じさせてくれる，2番目に好きな城である．8世紀頃からイベリア半島はイスラム教徒が支配し，その繁栄を謳歌していたが，それを押し返そうと国土回復運動に立ち上がったのがイザベル女王であり，その中心になったのがこのセゴビアの城である．城内には共に戦ったイザベル女王とフェルナンド王の玉座がある．イスラムの王は最後の砦アルハンブラ宮殿に居たが，この宮殿を後世に残すため無血開城し，イザベル女王もこれを破壊せず，獅子の中庭など今日でもその素晴らしさが堪能できる．画家エル・グレゴで有名なトレドは町全体が城壁で囲われているが，その中心部に壮大な城が聳え立っており，旧都として当時の繁栄振りが窺える．

写真2　セゴビアの城

ポルトガルには形の変わった城がある．リスボン郊外に円錐状の大きな帽子を2つも被ったシントラ王宮，この帽子は厨房の煙突，室内は絵模様のタイルなど豪華な装飾が施されている．そこから少し丘を登るとペナ城があり，おとぎの城を思わせるかなり奇抜な形をしている．この築城主フェルナンド2世はルートビッヒ2世のいとこである．

ローマカトリックの総本山サン・ピエトロ大寺院の正面から少し離れた，テヴェレ川が大きく湾曲するところにサンテジェンロ城がある．この建造物はバチカンから教皇達が有事の際に地下路を通って避難するために改築された円形状のとても重厚な城で，サンテジェンロの名は城の頂上にあ

る「聖天使」に由来する．南イタリアはかつてその領有権をめぐってフランスとスペインが争っていた．ナポリ，サンタ・ルチア港を臨むところにフランス風のヌォーヴォ城がある．その後スペイン支配となり，今の城に改築されたが周囲を威圧するような外観から戦いの歴史が見て分かる．

イギリスやデンマークなどの王国には王室の居城がある．ロンドン郊外のウィンザー城，居城としては世界最大の規模で外観はゴシック様式，内装は華麗なバロック調でまとめられている．城内は大きく3区に分かれていて，下区は一般公開されている．上区も女王が在城されなかったので一部見学できた．コペンハーゲン市内にはかつての居城クリスチャンヌボー城があるが現在は国会議事堂，そこから少し離れてアマリエンボー宮殿がある．八角形の広場を囲んで同形の4つの館が建ち，北欧には珍しく尖塔のないロココ風の宮殿である．

ヨーロッパを二分したかつての王朝にブルボン家とハプスブルク家がある．このブルボン家の絶頂期は太陽王ルイ14世のとき，この絶対権力の大きさはパリ郊外のヴェルサイユ宮殿，絢爛豪華な鏡の間に見ることができる．一方，ウィーンにはシェーンブルン宮殿があり，その豪華さは勝るとも劣らず外壁の色はハプスブルク家の女帝が好んだ黄色，マリア・テレジア・イエローと呼ばれている．その皇女マリー・アントワネットはルイ16世に嫁ぎ，その後ヨーロッパの歴史は大きく変わっていく．

ヨーロッパには数限りないほどの城とそこを舞台に作られた歴史があり，実際に城を目の前にすると考え深いものがある．古城巡りの旅も子育てで中断していたが，娘も中学になったのでまた再開したいと思っており，そのため娘にも城の話をし続けている．